

第3章 将来像実現のための街づくりの考え方

1 これからの街づくりの方向性

中目黒駅周辺地区整備構想に掲げる地区の将来像を踏まえつつ、地区内及び周辺の様々な環境変化や将来動向も見据えた、中目黒駅周辺地区におけるこれからの街づくりの方向性は、次のようにまとめることができます。

人の集まる拠点ごとの魅力をつなぎ、地区の魅力・活力を高める街づくり

本地区は、区の都市計画マスタープランにおいて、職・住・遊の多様な都市機能が集積する広域生活拠点として位置づけられています。その交通利便性の高さ、目黒川や桜並木を中心とした水や緑などの自然が身近に感じられる場であることが、地区の最大の魅力となっています。近年、未利用地の活用や土地の高度利用等によりさらなる機能集積が進んでおり、昼間人口は増加傾向にあります。一方、イベント時の一時的な集客だけでなく、年間を通じた適正な集客の維持や、回遊性の向上が求められています。そのため、地区内の拠点ごとの個々の魅力を高めることはもとより、それらをつなぐハード・ソフト両面からの取組を講じ、面的な広がりを出します。また、代官山、目黒、大橋、祐天寺との広域的な連携を図ることで、地区全体としてのさらなる魅力と活力の向上を図ります。

活気ある生業の場と、落ち着いた暮らしの場の共存・調和を図る街づくり

本地区の魅力は、多くの人が行き交う活力のある商業・業務地と、それに接する利便性の高い住・商・業の複合市街地や落ち着いた魅力のある住宅地が隣接していることにあります。そうした魅力を高め、維持していくため、個性の異なるエリア間の共存・調和を図っていくことを目指します。

特に、暮らしの場としての魅力を維持するためには、ごみやタバコのポイ捨てや夜間の騒音、歩行者や車の混雑などの環境上の課題の改善によって、良好な市街地環境を維持していくことが重要となります。そのため、生活環境の向上や安全・安心な街づくりに向けた取組を地域一丸となって進めていきます。

文化・芸術を通じて、人々のつながりが生まれる街づくり

本地区の変化として、こだわりや個性のある店舗、クリエイター等が集まるシェアオフィス、時代をけん引する企業など、新しい文化・芸術を生み出す事業者や、新しい感性に共感する人々が集う街となっていることが挙げられます。

今後、こうした新しい文化・芸術を生み出す様々な企業、新たに開校する東京音楽大学などとの連携を図ることで、国内外で活躍するクリエイティブな人材や企業が多数輩出する拠点となることを目指します。さらに、継承される文化・芸術との共存・調和に努め、文化・芸術を通じて多様

な人々のつながりやネットワークが生まれる街を目指します。

子どもからお年寄りまで、誰もが安心して快適に暮らし続けられる街づくり

本地区には、戸建て住宅から低・中・高層共同住宅、商業・業務施設などとの複合住宅まで、多様な住居が立地しています。障害者をはじめ子供から高齢者まで安心して快適に暮らし続けられるためには、それぞれの住居の立地条件に応じた施策が求められます。

施設のバリアフリー化などの改善はもとより、高齢化や少子化が進む中で、高齢者や子育て世代が気軽に交流できる場や機会、また子育てと仕事を両立させたいというニーズが高まる中で、子育て環境を整えていくことが望まれます。一方で、地区内には、建物密度が高く、細街路が多いため、生活上・防災上課題となる地域も残されています。

これらの課題解決に取組み、生活環境の改善や防災機能の向上を図ることで、子どもや高齢者、障害のある人など多様な人々が安全に、安心して快適に暮らし続けられる街を目指します。

街の持続的な発展を支える、様々な主体が手を取り合う街づくり

これからの街づくりにあたっては、区民や事業者、行政が一体となり、街の持続可能な発展を支えていきます。平成29年12月には、中目黒駅周辺地区街づくり協議会が、中目黒に対する愛着や誇り（シビック・プライド）を持ち、秩序と思いやりある自発的な行動をすることを「なかめスタイル」として、その考え方や具体的な行動を整理しました。一人ひとりが中目黒での暮らしをより良くするために必要なことを見つけ、解決方法を考えて、行動していく、この「なかめスタイル」に基づく意識や行動の醸成を図ります。また、地域主体による街づくりの担い手による連携の仕組みをつくり、継続的な街づくり活動の展開を目指します。

2 地区の将来像とこれからの街づくりのテーマ

整備計画の改定にあたっては、前述したこれからの街づくりの方向性に応じ、整備構想で示している地区の将来像を捉え直し、これからの街づくりのテーマを次のように設定することとします。

整備構想に掲げる地区の将来像

地域の個性を活かした 文化の創出ができるまち なかめぐろ

これからの街づくりのテーマ

～創造的コミュニケーションがあふれるまち～

良好な住環境や、地元の賑わいや催しごとなどは、中目黒を愛する住民の手で生まれ、それは街を愛する次世代に引き継がれていくべき大切なものです。これからは、世界を見据えて活躍する大学をはじめ、様々な主体も加わります。そして、落ち着いた暮らしの場と賑わいの場が共存する中目黒では、様々な価値観と個性が溶け合うことで生まれる、新たな文化とつながりの「種」があります。

こうした地域の個性を活かし、文化の創出ができるまちを実現するため、地域関係者が音楽、美術、デザイン、新たな働き方やライフスタイルなど、多様な文化を創造できる街づくりを目指します。

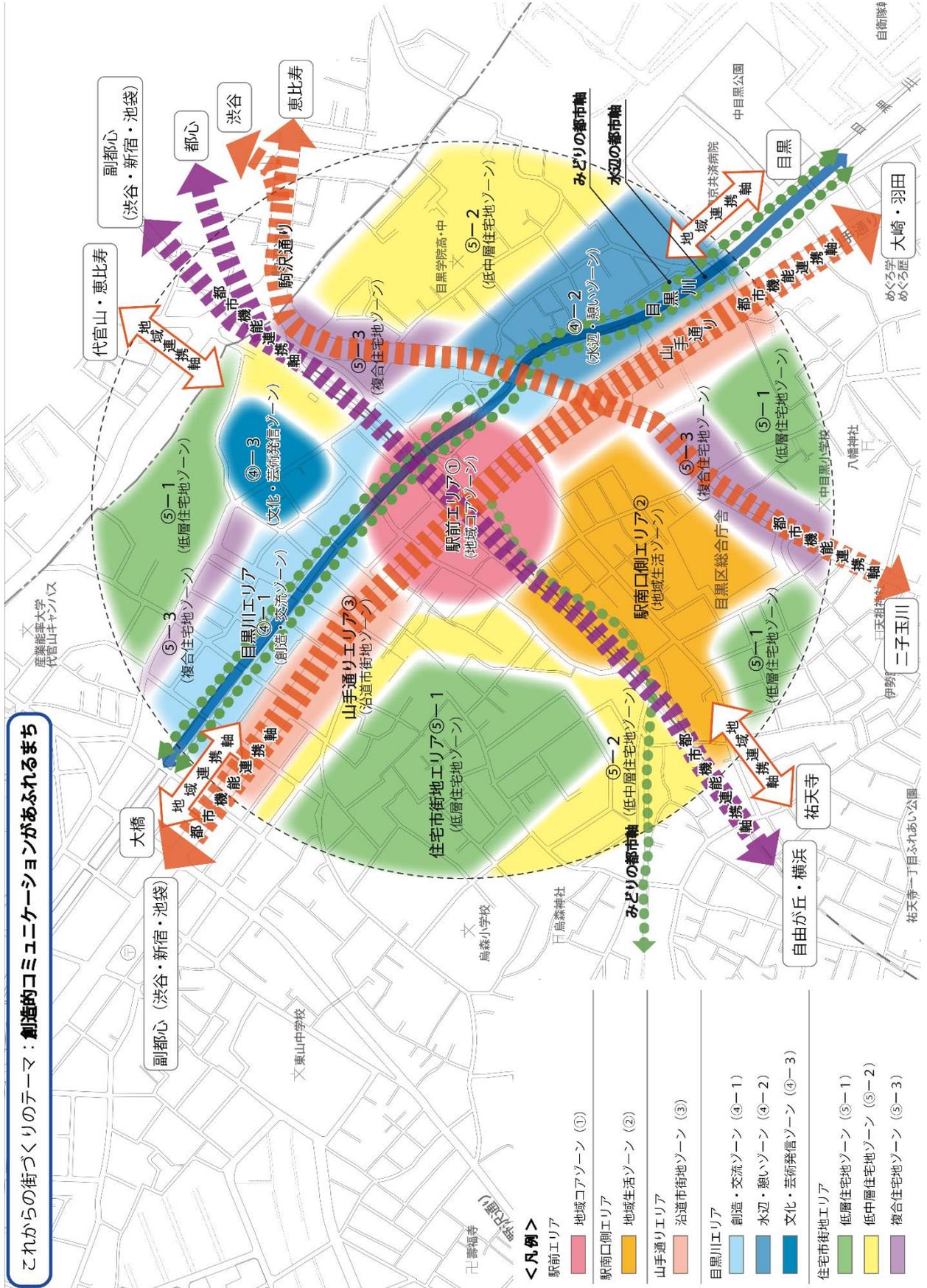
創造性あふれる街では、人々の間で新しく豊かなコミュニケーションが生まれ、日々の暮らしに潤いと心の豊かさを与えるとともに、街を訪れる人にも街に対する愛着が育まれます。それらを通して生活や街への関心が深まることにより、人々のモラルが高まり、気持ちよく都市生活を楽しめるようになることが期待できます。

多様な人びとと快適な街とが心地よく響き合う、そんな中目黒を目指していきます。



◆街づくりの方向性

これからの街づくりのテーマ：創造的コミュニケーションがあふれるまち



- <凡例>
- 駅前エリア
 - 地域コアゾーン (①)
 - 駅南口側エリア
 - 地域生活ゾーン (②)
 - 山手通りエリア
 - 沿道市街地ゾーン (③)
 - 目黒川エリア
 - 創造・交流ゾーン (④-1)
 - 水辺・憩いゾーン (④-2)
 - 文化・芸術発信ゾーン (④-3)
 - 住宅市街地エリア
 - 低層住宅地ゾーン (⑤-1)
 - 低中層住宅地ゾーン (⑤-2)
 - 複合住宅地ゾーン (⑤-3)